

岩手県陸前高田市  
株式会社八木澤商店

かたちあるものは  
すべて流されたが

# 社員、もろみ、 人のつながりという 最高の宝が残った

文＝編集部・甲斐良治

八木澤商店大東営業所  
〒029-0523  
岩手県一関市大東町楢沢字沼田17-12  
http://www.yagisawa-sc.jp/



「八木澤の生揚げ醤油が完全復活したと言われるまで死ねないよ」と、河野和義さん（写真＝尾崎たまき）

3月11日の地震発生は、本誌前号の最終校正直後だった。倒れたロッカーや、散乱した書類の片付けもそこに、徒歩で自宅へ帰ることにした。

農文協を出るとすぐ、情報を得ようと赤坂の電器店でポケットラジオを買った。その店のテレビではすでに三陸沿岸に押し寄せる大津波の空撮映像が流れていて、人びとが固唾をのんで見入っていた。

三陸沿岸と聞いてすぐに思い浮かんだのは、岩手県陸前高田市の河野和義さん（66歳）のことだった。1807（文化4）年創業の老舗味噌・醤油製造・八木澤商店社長で、本誌の前身である『増刊現代農業』2001年5月号「地域から変わる日本 地元学とは何か」を皮切りに、何度か『増刊現

代農業』にご登場いただいたほか、盛岡市や陸前高田市、東京都内で開かれた地元学関係の催しでお会いし、夫人の光枝さんとは宮城県宮崎町（現加美町）の「食の文化祭」で一緒に過ごしたこともある。

河野さんは、八木澤商店は、無事なのだろうか？ 歩きながら、3時間ほど歩いたころだったろ



白壁となまご壁が美しかった八木澤商店（2009年撮影）。奥に32ページ写真の建物が見える

うか、上野の不忍池付近で道を間違えたことに気づいて引き返そうとしたとき、数m先から歩いてくる白髪の人物と目が合った。まさか！ 心配していた河野さんその人が目の前に現れた！

「昨日から東京に出張中で、陸前高田に帰るところだったんだが、新幹線が出るとすぐに止まって閉じ込められた。電話も全然通じないから、どこかで待機するよ」

まだ三陸の惨状を知らないのかもしれない。かける言葉もなく、「東北は大変なようですな」とだけ言って、握手して別れた。

## 地域に受けた 2000年の恩を返す

「いやー、上野以来だなあ！ 変な人相の男が近づいて来たと思ったら、お前さんだったものなあ」

5月1日、河野さんがそう言うて迎えてくれたのは、陸前高田市に隣接する一関市大東町大原の避難先の家。3月14日に陸前高田に戻った河野さんは、この家に陣取り、陸前高田市内が停電で電話も通じなかった震災後の1カ月、全国を取引先や友人と携帯電話で連絡を取り、送られてきた食料や衣類などの救援物資を、在宅の被災

者に届ける八木澤商店の活動を指揮した。

「体育館などの大きな避難所にいる家を流された人々には、自衛隊が救援物資を届けた。だけど家が流されなかった人々も悲惨だった。水も米も電気もガソリンもない。電話も通じない。物資は避難所にはあるけど『家が残っていないじゃないか』と言われるので行けない。そんなことを言う人なんていないんだが……」

一方で、河野さんも、八木澤商店も、大きな被害を受けた。気仙川を逆流してきた津波が、蔵も店も自宅も、すべて押し流した。

「社員40人のうち、亡くなった社員が1人、家を流されたのは27人、身内を失ったのは7人。妹を失った僕を入れると8人。社員が『何もしないでひとりしていると気が減るから、何か仕事をしたい』と言ってきたから、『避難所以外の孤立世帯に物資を届けよう、それが仕事だ。2000年間、地域に受けた恩、いまお返ししないで、いつ返すんだ！』とね」

10台あったトラックのうち、8台は流されたが、内陸部に営業に行っていた2台が残った。ガソリンは、会社の仮事務所と物資の集



大口需用用の1000ℓ入り醤油配送タンクががれきの中にあっ

積所を兼ねた高台の自動車学校に残っていた車のタンクから抜いた。それがなくなると、高速道路の通行制限で東京に牛乳を届けられなくなった葛巻町の乳業会社が、牛乳運搬車のガソリンと牛乳を提供してくれました。

会社には、重い味噌や醤油を宅配していた長年のノウハウもあつた。どの地区でどんな物資が必要とされているか、情報を集め、河野さんが全国に発信し、社員が物資を届けた。

「不思議なもので、みんな一緒にやって仕事をしていると、明るさを取り戻すんだ。高田の人は八木澤が全部流されたのを知ってる。普通なら廃業か解雇のはずなのに、なんでこんなに元気に物資を届けているんだと、変に感動されたり友情みたいな感情をもたれて、生

き生きと仕事した。自分の家は流されている社員も多いのに」

## 素早い復興への動きと 客や友人からの支援

4月11日までの1カ月の仕事は、宅配のボランティア。翌日からは、会社の復興へ向けて全力で走り出した。

内陸部に工場があった味噌は3・7トン残った。いまままでおりのアイテムをいまままでどおり売ることができると。醤油は当面、秋田県のやはり伝統製法にこだわる協力会社に委託生産（OEM）することにした。「つゆ」と「たれ」も、委託生産の醤油で1年以内に復活させたい。

だが何年かかろうと、なんとかしても代表的商品の生揚げ醤油は、復活させたい。

14個の気仙杉の仕込み樽は、気仙川の川上700mの山際で1個だけ見つかった。かすかにもろみが残っていた。さらに北里大学海洋バイオテクノロジー・釜石研究所から、「研究用に譲り受けていたもろみ1kgが無事だ」と電話が入った。海岸の研究所だが、2階に保管されていたので奇跡的に助かったのだ。県の醸造試験場に依頼